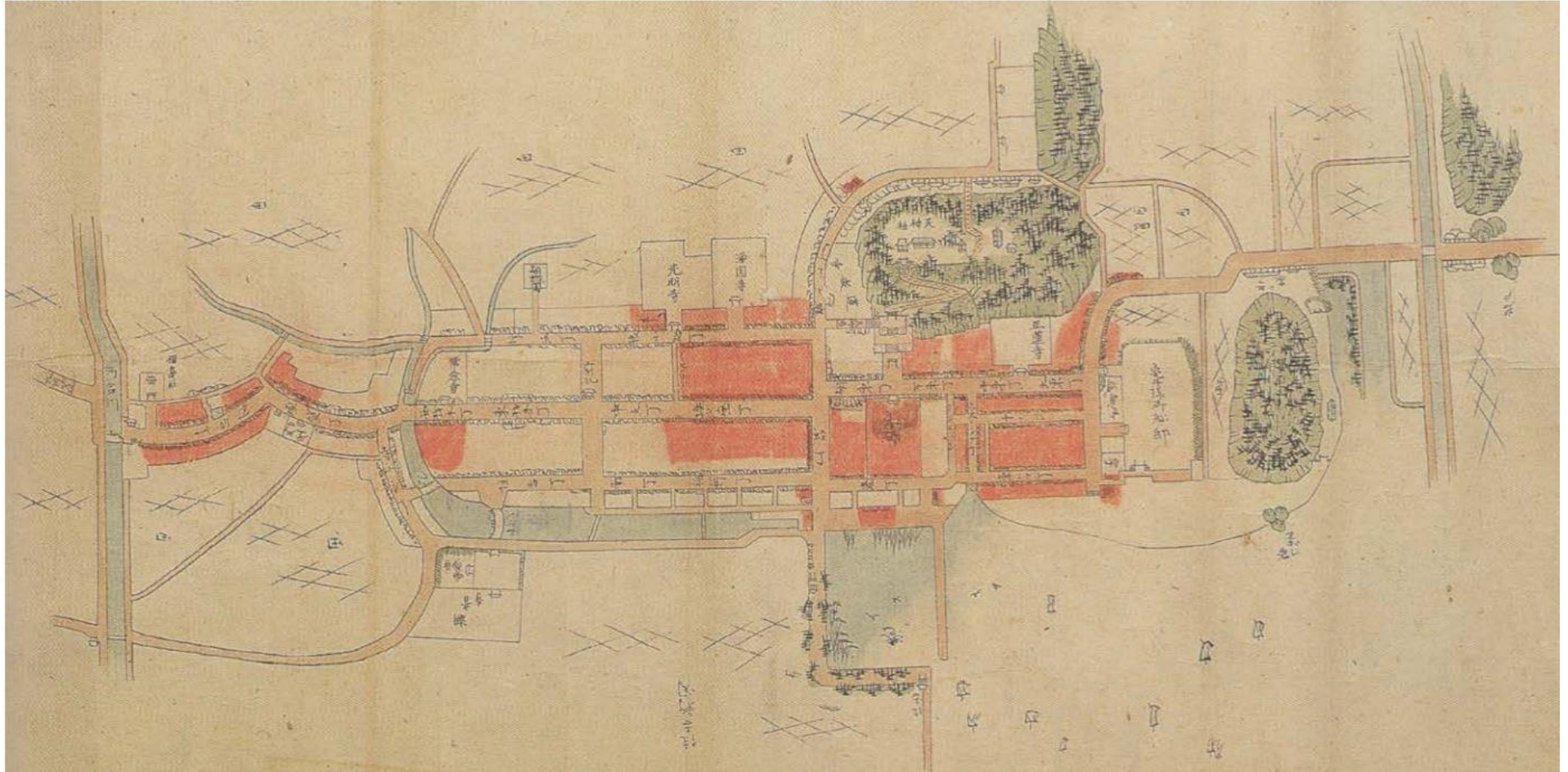


幕末の廿日市町屋の悲劇



慶応 2 年（1866）第 2 次長州戦争時の廿日市町屋焼失図
（図説 廿日市の歴史より引用 110 頁）

｜長州戦争（四境戦争）

嘉永 6 年（1853 年）にアメリカの使節ペリーが来航し、約 250 年続いた幕藩体制は揺らぎ始め、長州藩を筆頭に幕府に反対する勢力が台頭する。長州戦争は、元治元年（1864 年）と慶応 2 年（1866 年）の 2 回にわたり、江戸幕府が長州藩の処分をするために長州藩領のある周防国、長門国（防長二州）へ向け征討の兵を出した事件を指す。

長州征討、長州征伐、長州出兵、幕長戦争とも、また長州側の立場から、この戦いは、「四境戦争」とも呼ばれる。

｜長州戦争に至る経緯

元治元年(1864)7 月 19 日の禁門の変によって、長州藩が朝敵となったことに始まる。

長州との国境（くにざかい）に面する佐伯郡は戦時体制下に置かれ、重要警衛地となった廿日市は可愛川の土手に砲台が築かれた。しかし第一次長州戦争は、長州藩が幕府に恭順の姿勢を示したことで撤兵令が出された。長州藩内では高杉晋作の挙兵によって内戦が起こり、忠誠を誓う恭順の姿勢を示しながら軍事力強化をすすめる「武備恭順（ぶびきょうじゅん）」に方針を転換した。

｜第 2 次長州戦争 廿日市の状況

このような長州藩の動きに対し、慶応元年(1865)4 月 19 日、長州藩への再出兵が決定された。

幕府は、慶応 2 年（1866）6 月 5 日を征長期日としたが先鋒に命じられた広島藩の出兵拒否によって延期。改めて 6 月 14 日を開戦の日と決定。13 日には本営を廿日市に移して開戦に備えた。

慶応 2 年（1866 年）6 月 7 日に幕府艦隊の周防大島への砲撃が始まり（大島口）、14 日には芸州口、16 日には石州口、17 日には小倉口と四つの国境（くにざかい）でそれぞれ戦闘が開始された。征長軍としての出兵を拒否していた広島藩は、開戦前に小方村の舞部隊を廿日市と浅原まで撤退させ、開戦になると保井田（現広島市佐伯区）・古江・己斐に藩兵を出動させた。その後も広島藩は、幕・長間の戦争に巻き込まれないよう西国街道沿いの小方・玖波・大野方面を避け、主として廿日市から津田に至る津和野街道沿いに藩兵を出動・移動させて防衛に当った。

戦況が好転しない中、長州軍は幕府への嘆願書提出と称して玖島の間道（脇道）の進軍を認めるよう広島藩に申請。両軍撤兵の約束を長州軍は反故、津田・友田方面を占拠、さらに峠まで進出し砲台等を築く。7 月 20 日 長州軍は廿日市関門へ使者を出し、上京嘆願のためと称し通行許可を求め、広島藩がこれを拒否するならば兵力をもっても通過すると申し入れた。広島藩士は幕府に対する広島藩の立場、また先の友田における約束を一方的に破棄した長州軍に対する不信感からこの申し出を拒否、兵力には兵力をもって応ずるとしたため、両軍は一触即発の状況となった。

（維新史回廊だより第 14 号 発行山口県環境生活部文化振興課）

慶応2年(1866)7月20日夜四つ時(10時)廿日市町屋火焼に包まれる

7月20日当日年寄石井修理は森島佐伊記と協議し、長州軍の廿日市通過を阻止するとともに藩兵の志気を鼓舞する目的で、藩兵に命じて廿日市の町屋に火を放った(「廿日市町史資料編Ⅲ」696頁「556長州兵の関門通過を拒み藩兵廿日市町屋を自焼する記録」)。

7月20日その日の夕暮れ、市中の者は残らず退却するよう町触れがあり、家財道具を運び出す者、東西へ避難する者などで市中は混乱した。夜四つ時(10時)ごろ、町の東西から放たれた火はたちまち天を焦がし、翌21日も燃え続け、22日も市中には残り火が燃え続けていた。

藩兵による火付けのため消化活動をはばかり、ほとんど消化に出る者はなかった。そこで割庄屋小田新七は藩の御歩行組(おかちぐみ・徒歩で戦う下級武士のこと)に可否を訪ね許可を得ると佐方村に加勢を求めて消火にあたった。しかし、努力もむなしく、廿日市の町屋の大半は神社仏閣を除いて235軒焼失した。

長州藩は、兵の数は少ないものの当時最新鋭のフランスのミニエー銃を用い、旧式の装備の幕府軍を圧倒。その後も各地で戦闘が行われたが、一進一退を続け、こう着状態となっていた。

9月2日、幕府は勝海舟を派遣し、宮島の大願寺において、長州藩の広沢真臣・井上馨らと交渉が行われ、両軍とも追い打ちをしないことを確約し、停戦となった。



芸州口の戦いは、引き分けに終わったが、周防大島口、小倉口、石州口では幕府は完敗した。

そのため、幕府の威信は大きく失墜し、翌慶応3年(1867年)10月14日、第15代将軍徳川慶喜により「大政奉還」がなされ、264年続いた徳川幕府は終わりを告げた。

(参考)

(「廿日市町史通史編(上)」1094~1116頁)

(左図参照) <http://blog.livedoor.jp/akichan10314002/archives/51177520.html>